

＝ ア・ナ・ロ・グ？ ＝

後半年度の大会は中間大会と位置付けていることから、加盟組合、県本部・県センターへの大会対応はそもそも少ない。今年はそれに新型コロナウイルス感染防止の対応も加わり、WEB開催や、出席者を極力絞りながらの大会となり本部対応は例年以上に少なくなっている。

そんな中、3県本部の大会に出席させていただくこととなった。その一件目は10月17日、熊本県本部。令和2年7月豪雨によって、河川の氾濫、土砂崩れ、家屋の浸水など、八代を中心に甚大な被害を被った熊本。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ボランティアは県内居住者に限られ、人海戦術頼りの復旧も思うように進まぬ中、泥と汗にまみれ懸命に取り組む地元の皆さんの姿をニュースで見たとき、何も力を貸せない実情に忸怩たる思いであった。一方で、地震、台風、豪雨と毎年のように自然の猛威に晒されながらも、その辛く苦しい経験が互いの支え合いを生み、日常的なつながりとなってきたと聞くと何かしら温かいものがこみあげてくる。

県本部の大会では、他の来賓もないことから少し長めの時間をいただいた。取り巻く環境、ダイバーシティの側面も含めた生き活きとした働き方、産業・企業の持続的な発展とそこに働く人たちの気概と誇り、そのための労使の役割はどうあるべきか、そして、それらすべての取り組みには、常に人をど真ん中におくことがなくてはならないと…。久々に対面で第一線の仲間会えたことの嬉しさと、マスクで顔の表情は見えないものの真正面から見つめる瞳に、みんなの思いをいただき帰京した。

古い言葉らしく今ではあまり使われなくなったとのことだが、2016年の熊本地震以降「がまだせ！熊本」のフレーズが並んだという、がんばろう！熊本の意。コロナ禍も加わり今は厳しい状況におかれ、Face to faceの取り組みもかつてのようにはいかないが、熱いまなざしを忘れることなく、みんなの笑顔の瞳をつくるため、知恵と工夫を凝らしながら、中央本部も、がんばるばい！

そんな思いや気遣いは、アナログといわれる人間だから持てる感情でもあるという。昨今、DX（デジタルトランスフォーメーション）の言葉をよく耳にする。デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変換、革新的なイノベーションなど、メリットは大きく、その変化に対応していくことの重要性は十分認識している。

私自身も定期中間大会において、「新型コロナウイルス対策とも相まって、足もと、第4次産業革命ともいわれるデジタル社会の進展は、そのスピードを速めるだろう。労働運動においても、たじろぐのではなく、むしろ積極的に変革に対応し、WEB会議、SNSを活用した発展的思考を備えつつ、組合活動を検討していく。」と、のたまった。が、正直、頭では理解しているものの、まだまだ心の片隅に、やっぱ、おいらはアナログ…という自分がある。

アナログ思考は数字ではっきりと表現しないパターンが多いが、デジタル思考は余計な感情をプラスしないため、何ごとも判断基準がクリア、わかりやすいことは間違いない。AIの存在は、デジタル思考の象徴、イエスカノーか、はっきりとした答えに基づく。だが、その能力は人間がやらずにロボットやコンピューターができる。これからの時代大切になってくるといわれているアナログの「曖昧」な部分。誰か悩みを抱えている時に、相手の立場に立って考え、相談に乗る…、柔軟な考え方や対応が人を救うことにもなる。つまり、それは労働組合役員の仕事でもある。

間違いなくデジタル社会は進む。第4次産業革命も到来する。その変化への対応を図りながらも互いに手を差し伸べ支え合う心をもって、組織も仲間も誰一人取り残すことなく、この時代変革の中を進んでいかなければならない。

そういえば久々に地下鉄の広告が目があった。「凹んだら、きっと誰かが 空気を入れてくれるから。人間って、そういうこと。」東京都自殺相談ダイヤルの車内広告。

そんな思いを引っ提げて、10月30日は群馬県本部、そして、11月21日は鹿児島県本部、草津・伊香保と湧き出る湯のような熱いまなざしと、燃える桜島の瞳に会いに行きますか…。待っててくださいませ。

ご安全に

2020年11月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一